



一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ <http://www.byoujihouiku.net/>

第95号

2018年(平成30年)11月25日

[発行人] 会長 大川 洋二
(大川こども&内科クリニック)

[発行] 一般社団法人 全国病児保育協議会事務局
〒160-8306
東京都新宿区西新宿5-25-11-2F (株)日本小児医事出版社内
FAX:03-5388-5193

厚生労働省訪問報告

一般社団法人 全国病児保育協議会 あり方委員会 委員長 稲 見 誠

平成30年9月14日に大川会長とともに厚生労働省を訪問し、濱谷浩樹子ども家庭局長ならびに病児保育担当者と面談を行いました。下記のように病児保育の現況や協議会の活動内容の説明を行い、その後協議会としての要望を行いました。会談は1時間以上に及び意見の交換を行いました。各要望に対する回答は要望事項の最後に記載しました。また盛岡で行われる全国病児保育研究大会への出席もお願いして、快諾を得ております。

I. 病児保育の現況

1. 病児保育協議会の活動内容

現在協議会には677施設が加盟しており、そのうち病児保育施設が608施設であり病児保育施設に限れば68%が加盟している。研修会は全国規模、各ブロック、県単位で行われており、年1回全国規模の研究大会を回り持ちで開催し、2019年7月には岩手県盛岡市で予定している。また、厚生労働省主導型の各都道府県主催研修会にも協力し、講師の派遣や資金助成も行っている。

病児保育協議会では病児保育の専門性を高めるために「病児保育専門士」の認定制度を行っており、全国で330人以上が認定されている。

2. 平成28年度実態調査報告に関して

利用人数は施設平均で754人、キャンセル率が高く46%であり、利用者の季節変動も大きい。保育士一人当たりの病児数は1.8人（国の基準では3人）と手厚い保育看護が行われている。運営費の82%は人件費であり、全施設の78%が赤字経営となっており、特に利用者の少ない地方にその傾向が強い。

II. 要望事項

1. 財政的援助の拡大に関して

基本分の増額が各自治体で対応していないところがあります。また、増額分を支給されても健全な病児保育事業の運営には十分でない。

厚労省回答A: 各自治体には無条件で増額分を支給するよう指導致している。その他援助の増額も検討させていただく。

2. 病児保育事業に対する経営調査、職員待遇に関して

28年度に厚労省主導で保育所に対して経営実態調査、職員待遇調査を行ったが、病児保育施設は含まれていない。高い知識を持つ病児保育の保育士でも、通常の保育所の保育士と待遇に差がある。これを明確にするために、病児保育施設にあっても同様の調査を厚労省主導で行っていただきたい。

A: 次回調査で考慮する。

3. 病児保育施設に勤務する保育士の待遇改善に関して

通常の保育士では待遇改善策がなされているが、病児保育に勤務する保育士が対象になっていない。同じ地域子育

て事業の範囲にあるので同様の待遇改善を行ってほしい。

A: 予算の出どころが違うので確答できないが、各自治体には指導する。

4. 病児保育専門士への待遇改善に関して

保育所では主任保育士に対する報酬の優遇処置がとられているが、病児保育事業においては、病児保育専門士が主任に相当するので、病児保育専門士にたいして、報酬の優遇処置をお願いしたい。

A: 検討していく。

5. 加算部分の200人刻みの補助金の再検討に関して

現在200人刻みの補助金支給であるが、実態に即した50人刻みにしてはどうか。また4000人を超えた場合は。

A: 50人刻みにするか、実数とするか検討する。細かい区分にすると預かり病児数が変わらなくても減額されることがあり検討が必要だ。4000人超えた場合も現在の増額基準で計算する。

6. 保育士の定員増に関して

現在、実施要項により3:1保育がなされているが、実情に合わせず安全の確保ができない。実際に協議会施設では1.8:1保育がなされている。増員してほしい。

A: 実情を調査して考慮する。

7. お迎えサービスに関して

お迎えサービスはいろいろな問題点を有している。実施するに当たっては、細則を予め決めなくてはならない。

A: 予め協議会とも相談しながら、細則をきめていく。

8. 病児保育の広域利用に関して

利用率の向上、利用者の利便性のために、広域利用が必要である。実際に山梨県では全県単位の広域利用に取り組んでおり、他県でも広がり始めている。

A: 各自治体で広域利用ができるように指導していく。

9. 母子同室業務に関して

育児や看護の未熟な保護者を子どもと同時に入室させ、育児・看護を指導することにより、不安を解消させる事業を病児保育の業務の一つとして追加してほしい。

A: 有益な事業であるので、今後検討する。

10. 子育て世代包括支援センターに関して

子育て世代包括支援センターに保育関係の人材が入っていない。保育と子どもの病気について精通している病児保育専門士を追加していただきたい。

A: 関係している各者に相談して検討していく。



平成30年度 三重ブロック研修会報告

三重県支部では、研修会幹事を昨年度のよいこ病児保育室さんから引継ぎ、本年度は医療法人熱田小児科クリニック津病児デイケアルーム「ひまわり」が担当しました。昨年に引き続き、津市の三重県総合文化センターにて、9月9日（日曜日）の午前9時半からの開催としました。参加施設は、県外からも6施設、三重県内では協議会未加盟施設を含む8施設、又、遠方の徳島県からの参加もあり、計14施設67名のご参加を頂きました。

内容は、支部長の多湖先生のご挨拶、三重県子ども・福祉部少子化対策課保育サービス・幼保連携班の刀根様からのご挨拶を頂いた後で、常任理事の羽根先生より協議会報告をお話頂きました。その後、特別講演としまして、第1部は鈴鹿医療科学大学の助教でいらっしゃいます杉山先生より「子どもに関わるおとなに必要な性の理解」と題しまして、たいへん貴重なご講演を頂きました。

第2部は熱田小児科クリニック熱田純院長による「病児保育施設での食物アレルギー」の講演、その後でマ



イランEPD合同株式会社様、大正富山医薬品株式会社様の実技を用いる講演がありました。また、並行して10時からは別室で施設長会議を県の担当者の刀根様、津市役所子育て推進課の小林様、福島様にもご参加頂き、開催しました。

研修会の内容はとても興味深く、第1部では命の大切さ、「寝た子を起こすな」という考え方ではなく、子どもたちに正しい知識を伝えていくことが大切であるという感想が多く寄せられ、第2部では病児保育をしていく中で、個人の情報をしっかりと把握し、保育士自身もアナフィラキシー症状が起こった時に迅速に対応が出来るよう目頃から知識を高めておくことの大切さを知る機会となり、とても有意義な研修会となりました。

来年度も引き続き、幹事を熱田小児科クリニックが担当致します。どうぞよろしくお願い致します。

報告者 奥田 真美
(医療法人 热田小児科クリニック 津病児デイケアルーム「ひまわり」)

第16回 北東北病児保育研修会

平成30年9月24日に弘前市民会館において、北東北病児保育研修会が「今、病後児保育を考える」というテーマで開催されました。北東北病児保育研修会は、毎年1回、主に青森、秋田、岩手の病児保育をしている施設のスタッフが集まり、日頃から病児保育で悩んでいることや苦労していることを持ち寄って話し合う会です。今回で16回になりますが、昨年は岩手、一昨年は秋田で開催され、今年は青森の順番でしたので、弘前の私たちの施設が担当することになりました。参加者は、青森、岩手、秋田の施設のかたが多かったのですが、南は仙台、北は函館からも来てくれて、参加者の総数

は116人でした。

午前は、全国病児保育協議会感染症対策委員会の佐藤 勇先生に病児保育室での感染症予防対策についての講義をしていただきました。型が違ってもインフルエンザであれば、同じ部屋でも伝染することはないことが、職場の感染予防にはスタッフの予防接種も大切なことがわかりました。午後は、全国病児保育協議会の副会長の高橋広美先生による優しく、謙虚なお人柄、そして保育士として誇りを感じさせるお話を伺い、同じ保育士として勇気づけられました。北東北の病児保育施設は保育所併設の病後児保育が多く、そこで保育



看護されている子どもは少なくありません。その子どもたちが安全に、安心して過ごすためには、クリニックや病院はもっと病児保育について理解し、かかわりを持ってほしいと思いました。保育所併設の病後児保育のスタッフが多かったので、質問や意見がたくさんありました。16時の閉会の時には薄暗くなっていましたが、皆、満足して帰路につかれたと思います。

報告者 原子 真妃

(あらいこどもクリニック／眼科クリニック 病児保育室「きりん」)

愛知・三重・岐阜・静岡 合同研修会 第15回 あいちブロック交流集会

H29年10月29日、第15回あいちブロック交流集会をかねて、ウインクあいちで開催いたしました。4県、39施設、123名の参加でした。

講演1はランチョンセミナーでジャパンワクチンさんによる「ワクチンとインフルエンザについて」でした。数ある病気の中には、ワクチンで防げる病気（VPD）がある。接種できるワクチンが増え、かかることや重症化を防ぐことができる病気がふえてきた。ワクチンは個人の健康だけでなく、集団での流行を防ぐという、社会の健康を守ることにもつながり、こどもを人生という長い目線で守るものだと覚えておきたいという内容でした。

講演2は名古屋短期大学保育科 小川雄二教授による「食育で子どもの体と心と生きる力を育む」という演題でした。食育とは知育、德育、体育の基礎であり、生きる上での基本である。①脳を育てる「食育」。視覚、聴覚、触覚、嗅覚すべてをつかって味見をする試みをきいた。食事時に「美味しい？」ときくのではなく、「どんな感じ？」「どんな味がする？」と問い合わせを工夫するだけで、思いもよらない言葉があふれてく



ることがある。五感を使った食は言葉や心も育んでいたのだ。②食欲のリズムを育てる「食育」。10分早起き、簡単お手伝い。30分をめどの食事時間。たくさん食べる事より適量を美味しく楽しく食べることを目標にする。③自己肯定感・生きる力を育てる「食育」。買い物、野菜の収穫、簡単な調理など食の手伝いを通じて、褒めて、認めていくことで自己肯定感を子どもに持たせることができる。楽しく食べることで意欲的になり、暮らしや親子関係を大切にできるのであろうと締めくられました。

講演3は折紙の実習を折紙作家の いまいみさ先生の話を伺いました。

昨年大変好評でしたので、今年も子どもたちの喜ぶ折紙の実習をいたしました。

同時進行で31名の参加で施設長懇談会を開催いたしました。松川先生の進行で、1. 顧客管理の仕方、2. 職員が感染してしまったときの保障制度、3. 抗体検査の有無、4. 名古屋市の利用料金について、高額である、5. 利用期間、6. 市外の利用者の問題、7. 感染症の制限の有無、8. 胃腸炎のときガウンを着る意味、9. 単独施設の制約、10. 親と気まずくなった経験はないか、11. 発達障害に対する工夫。など非常に有意義なディスカッションができたとのこと。この後、雨もひどくなり最後の分科会は中止となり、閉会といたしました。

当日台風のため暴風雨警報が発令されていたので、どのくらい出席者があるのか不安でしたが、123名の参加がありました。ほんとうにみなさん熱心で頭の下がる思いでした。

報告者 前田 敏子

(なづな病児保育室)

第9回 千葉県千葉市合同研修会報告

9月30日（日）13時～17時、9回目になる千葉県千葉市合同研修会が千葉県医師会館（千葉市）で開催されました。参加人数は医師、行政を含む76名でした。事前登録では100名近い申込みがありましたが、超大型台風接近のため残念ながら欠席となつた方がいらっしゃいました。

1. AED・CPR講習（90分） AED業者の協力により、練習用AEDと人形12体を準備いただき、グループに別れ全員が心臓マッサージとAED装着を体験することが出来ました。病児保育室でもそれ以外の場所でも不測の事態に遭遇したとき、職種にかかわらず適切な対処ができるよう、今後も定期的な訓練が必要であると感じました。
2. 一般演題「子どもの誤嚥防止への取り組み」（千葉市：バンビーノ）とミニ講演「子どもの誤嚥と食材～そのお弁当、待った～」（医師：太田文夫）は、お弁当からみえてくる誤嚥防止、特に窒息への注意喚起と支援をテーマに、写真や具体例満載でわかりやすく明日からすぐ使える講演でした。
3. 「病児保育室の遊びとおもちゃ」（千葉市：えんじえるん）は、おもちゃコンサルタントマスターの資格を持つ講師の、病児保育室でのおもちゃに関する講



演に加え、たくさんの実物の展示があり実際に触れて使い方を教えていただきました。時間の関係で手作りおもちゃ実演は短時間になってしまいましたが、楽しく充実した講演と実演でした。

今回は昨年のアンケートをもとに希望の多かった、おもちゃ、CPR講習という、体を使った実践的な研修となり事後アンケートでも好評でした。全国研修会とは規模の違う地方研修会でこそこのような実習が可能であると感じます。

ただ他地区と同様、施設数が急激に増え、施設の把握、連絡、研修準備、会場確保など、今後の運営には課題も残されているとも感じました。

報告者 太田まり子
(おおた小児科病児保育室「ミルキー」)

2018年 山口県病児・病児保育スタッフ研修報告

2018年8月9日と9月9日の2日間で山口県病児・病後児スタッフ研修を実施しましたので報告します。この研修は厚生労働省の事業を山口県からの委託で実施しましたので、「職員の資質向上・人材確保等研修事業の実施について」（平成27年5月21日付け雇児発0521第19号）の別添5「病児・病後児保育研修事業実施要項」の内容に沿つたものにする、という条件がありました。合計8時間の講義それも内容と時間まで



指定されたうえ、厳密な入退室管理など厳格な運営で実施することが求められました。1日8時間ぶつ通しで実施すると早朝から夜まで参加者の時間を拘束することになり、これでは参加者が激減することが予想されたので、2日に分けて実施することを厚生労働省の許可を得ました。

山口県では従来から1～2年に1回スタッフ研修を実施していますので、これまでの研修内容とかぶらないこと、あるいは実践に役立つことを念頭に、講義内容を県担当者の指導を受けながら（様々なクレームをつけながら）作成しました。8月9日は225名、9月9日は208名の参加があり、アンケート調査では両日とも講演内容は満足できるという結果でした。特に救急救命士の講義とAEDを含めた心肺蘇生法の実技は好評でした。ただ県担当者が斡旋した会場は冷房の効きが悪く、折しも猛暑の影響と多数の参加者をいただいたことがダブルパンチとなって、会場内が蒸し風呂状

態となり、クレームが殺到しました。

5月の終わりに県担当者から予算が下りたので年度内での開催、できれば12月まで、という要請が有りましたので、学会や研修会が少ない時期で夏季に開催し

たのですが、来年度は余裕を持って良い時期と良い会場を選定して実施する予定です。

報告者 谷村聰
(医療法人 たにむら小児科)

加盟施設紹介

施設名 医療法人 妙光会 病児・預かり保育室「ミー」

所在地 〒515-0041 三重県松阪市上川町2194-3 安田小児科内科
TEL 0598-28-8832 FAX 0598-28-8833
<https://meahoiku.com/room.php>

記入者名 安田 妙子 (理事)

開設日 2018年4月1日

定員 9名

スタッフ 看護師 2名
保育士 3名



小児科医院に併設した病児・預かり保育室「ミー」は、平成30年4月1日、市の委託事業として産声をあげました。少子高齢化が囁かれるなか、地方都市は待ったなしの今、子どもを産み育てるお母様の子育てを少しでも支える事が出来、子どもの輝きを感じる事できればという想いで出発しました。未来を育てる気持ちと子どもの最善の利益を願う思いを日々持ちながら、毎日過ごすことが出来るよう努めて参ります。まだ一歳に満たないお子様から生きる力をもらう今日この頃です。可愛いお花が咲くようお子様、お母さまと共に過ごしていければ幸せです。『笑顔』をモットーに！

調査研究委員会からのお知らせ

平成29年度 全国病児保育協議会加盟施設の 実績調査にご協力ください!!

今年も例年どおり、協議会加盟施設の実績調査を12月から実施します。平成29年度（平成29年4月～平成30年3月）の利用実績や収支に関するアンケートです。12月初めにはアンケート票の郵送、ホームページの掲示をしますので、皆様のご協力をよろしくお願いします。

調査研究委員会 委員長 荒井 宏治



詳細は全国病児保育協議会ホームページ

全国病児保育協議会

<http://www.byoujihoku.net/>をご覧ください。



第29回

全国病児保育研究大会 in いわて

テーマ
少子化時代の病児保育
～様変わりする子育て環境～

2019年
会期 7月14日日・15日月・祝

会場 マリオス(盛岡市民文化ホール)他
 盛岡市盛岡駅西通2-9-1 TEL.019-621-5100

会頭 山口 淑子(医療法人山口クリニック病児保育室 キッズケアルーム風船)

実行委員長 小野寺 けい子
 (盛岡医療生活協同組合 川久保病院 病児保育室虹っ子ケアルーム)

主催 一般社団法人 全国病児保育協議会



大会事務局
 医療法人山口クリニック
 病児保育室 キッズケアルーム風船
 〒020-0633 岩手県滝沢市穴口377-1

運営事務局
 有限会社ヤマダプランニング
 〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-5-5
 TEL.019-635-6011 FAX.019-635-6033
 E-mail: byoujihoiku2019iwate@yamada-planning.co.jp

大会WEBサイト
<http://www.byoujihoiku2019iwate.jp>



編集後記



はじめて協議会ニュースの編集をさせて頂きました。わからないことばかりでたくさんの方のご支援によって無事発行することができました。加盟施設が増加し、各県の研修会も盛り上がりを見せてているようです。盛り上がりをみんなで次回大会につなげていきましょう。
 (広報委員 K・S)

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会

担当: 藤本保

〒870-0943 大分市大字片島83-7
 大分こども病院
 FAX.097-568-2970
 E-mail:byouji@oita-kodomo.jp